

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】(2Fさつき)

事業所番号	2793300159		
法人名	メディカル・ケア・サービス株式会社		
事業所名	愛の家グループホーム大阪松		
所在地	大阪市西成区松1丁目8-32		
自己評価作成日	令和3年2月15日	評価結果市町村受理日	令和3年4月6日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ ナルク福祉調査センター		
所在地	大阪市中央区常盤町2-1-8 FGビル大阪 4階		
訪問調査日	令和3年3月18日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

コロナウイルスの影響もあり、外部でのイベントや外出、地域交流が行えていない分、ホーム内において、季節感を感じられたり、食事をういたイベントなどを毎月開催している。また年に2回、小規模多機能と合同でホーム内においてお祭りを開催し、楽しみを持てる機会を提供している。2Fにおいては、毎週土曜日に足湯の日といったイベント行い、習慣化しており、またベランダで植物の栽培を利用者と共に行うようにしている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームの母体である法人は一環として認知症ケアサービスを追求し、2018年より学研グループの一員として新たなスタートをきり、今後の介護は予防・改善が重要とし、認知症の最先端の研究を産学協働で行っている。2年前に就任した管理者は法人の方針に基づいたICT(情報通信技術)を進め、職員皆が一体となった改革を実践している。法人指導の介護記録で月2回のカンファレンス及びヒヤリハット等の詳細な記録等は特に優れている。コロナ禍でこの間の利用者の外出等が困難になっているが運動の実施やイベントを工夫して開催し、現状の利用者のQOLは維持している。毎月、暮らしぶりを箇条書きに分かり易く、写真も数多く入れた「便り」を家族に送付し、家族との良好な関係を図っている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	出来ていると思う。	事業所独自の理念を掲げ、分かり易い場所に掲示し、職員の共有を図っている。管理者は理念としている「笑顔」等一つ一つの言葉の背景や奥に広がる大切さを文章化し、職員に明示し、理念の実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	コロナウイルスの影響でここ1年ほぼないが、以前は一定の交流があった。	自治会に加入し、コロナ禍の前は利用者と一緒に地域の公園の桜祭りや近隣にある商店街の喫茶店及び買い物に出掛け、地域の住民と日常的に交流していた。コロナ禍が収まったら従来の活動の再開や地域との関わりを深めるように計画している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナウイルスの影響でここ1年ほぼないが、以前は施設行事に地域の方々を及びする事があり、そういった機会には良いアピールが出来ていたと思う。	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	実施している。	コロナ禍で書類による運営推進会議となっているが通常は自治会代表・副代表・利用者及び家族代表・地域包括支援センター職員が参加されている。参加メンバーから意見や要望を聞き、運営に反映している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	取り組んでいる。	生活保護者が4割以上となっており、市の担当者等とは密に連絡を取っている。2021年のグループホームに於ける介護保険制度の改正の情報も把握しており、変化にも着実に対応している。以前は地域のグループホーム連絡会等に参加し、情報を得ている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	帰宅願望があり、単独外出のリスクがある利用者様がおられる為、16時から19時半の間、エレベータホールへ通じるドアの施錠を行っている。	「身体拘束ゼロの手引き」のマニュアルを整備している。身体拘束適正化に向けての対応は指針書を整備し、構成メンバーによる3か月ごとの委員会を開催し、定期的な研修を実施している。グレーゾーンである言葉使い等にも職員は研修会等で把握している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的な研修を行っており、防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	スタッフに差があるように思う。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ホーム長より十分な説明を行っており、利用者様・家族様は概ね満足しているように見受けられる。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見を機会を定期的に設けており、反映出来ていると思う。	コロナ禍で課題があるが2週間ごとに利用者の状況を電話で家族に連絡したり、月に1回、分かり易い言葉で箇条書きに利用者ごとの生活状況等や家族の希望で写真も数多く取り入れた「便り」を家族に送付し、家族との信頼関係を築いている。法人は家族に毎年、満足度調査も行い、運営に活かしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ホーム長の定期的な面談やリーダー会議等で意見を伝える場があり、しっかりと反映されている。	2018年から新会社になり、異動もあったが現状残った職員はユニットリーダーを主に2年前に就任した新管理者の下でより結束し、働き易い環境が作られ、職員のモチベーションが進化している。外部評価に於ける自己評価もユニットごとのリーダーや職員が作成している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	ホーム長の定期的な面談があり、スタッフが働きやすい環境作りに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部の研修等はないが、研修を定期的に行っており、資格取得支援を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナウイルスの影響でほぼないが、以前までは他施設の職員との研修等で交流する事はあった。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時の説明、またアセスメントで要望等を聞いている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	優先すべき支援を見極め、他のサービスの利用を含めたケアプランが作成されている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ほとんどの利用者様に家事のお手伝いをして頂いたり、また知恵をお借りする機会を多く良い関係を築けている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	定期的に家族様にお電話にてご様子をお伝えし、月に1度お手紙をお送りしている。その際に家族様に利用者様の要望等をお伝えし、希望があればご本人様と直接お話しする機会を設けている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ほぼないと思う。	身寄りがない方も多く、友人や知人の訪問は無いが家族の協力で墓参りや外食に出掛け、馴染みの場所支援を行っている。家族は電話や便り等で感謝している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	共に作業を行う機会を設けるよう努めており、良い関係が築けていると思う。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ほぼないと思う。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	努めている。	入居時にフェースシートを使い、過去の生活歴や趣味等を把握している。入居後も利用者・家族への連絡を頻繁に行っており、利用者とは認知症ケアサービスに特化した傾聴等や月2回のカンファレンスから1人ひとりの希望や要望等を把握し、沿った支援を心掛けている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴、入居時に書類を作成しており、スタッフが把握できるように事前にカンファレンス等行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	出来ていると思う。	月2回のカンファレンスを開き、アセスメントやモニタリングを定期的に行い、サービス担当者会議を開催し、現状に合った介護計画作成につなげている。見直しも3ヵ月ごとに行っているが急変時は即変更するようにしている。介護計画作成への過程はチームによる本社の指導に基づいた介護記録となっており、アップル製スマホで職員皆が共有している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録したカンファレンス等で話し合っ実践を行うように努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人様、家族様の希望を優先し、受診を行っている。	入居時に利用者や家族と話し合い決めており全員が協力医として、内科は月2回・歯科は週1回の訪問診療を受け、眼科や内科クリニックの精神科や随時の訪問診療も受けている。その他の医療機関には職員が付き添い、看護師とは24時間医療連携がとられ週1回遠隔診療による健康観察を行い、変化のある時は家族に伝え適切な医療支援をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護師と情報の共有を行い、指示があれば、速やかに行動に移すように努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入退院時には情報交換、またホームで出来る事を病院に伝え、また家族様の意向等を伝えている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	取り組んでいる。	契約時に重度化や終末期の対応を話し合い指針を作成し同意書を交わしている。体調に変化があれば主治医より家族に説明して看取りの指針を作成して家族の希望や意向を取り入れ関係者と連携して支援に取り組んでいる。職員はその都度看取りの研修をして対応している。今までに多数の看取りを経験している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	スタッフにより個人差がある。緊急対応マニュアルはあり、全スタッフ把握している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練が定期的実施されているが、個人差はあると思う。	年2回消防・災害の自主避難訓練を実施している。マニュアル・ハザードマップを確認し、法人より水・おかゆ・ご飯の1週間分の食品・ランプ・ラジオの非常物品を用意している。近隣に職員は数名在住しているが住民への声掛けは出来ていない。	災害時には利用者の見守りなど近隣住民との協力体制を得られる様、近隣住民に運営推進会議などで訓練の参加を呼び掛けられて協力体制を構築されることが望まれる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	心掛けて対応している。	年間研修計画で接遇・身体拘束の不適切ケアについての研修があり、プライバシーに配慮したトイレ時の対応や言葉かけに気をつけている。不適切な言葉に気づいた時は注意して3か月に1度管理者と面談して話し合う機会を設けている。個人情報の書類は事務所に保管し、プライバシー保護に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	出来るだけ希望に沿うように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人様の希望に沿って支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	心掛けて行っている。	シルバー献立の食材業者より食材を購入して調理専門職員が調理して3食提供しており、職員も同じものを食している。月に1度イベント食として餃子づくりや、週1回のおやつのおべーカステラやたこ焼きづくりに利用者は参加して調理を楽しんでいる。ピザ等テイクアウトを利用しているが今後は外食レクを取り入れたいとしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	ご本人様の意向を優先しているが、出来るだけ自立に向けた支援を行っている。	リハビリパンツ・布パンツそれぞれの様子を把握して声掛けしてトイレでの排泄の誘導をしている。日中オムツ外しをして排泄の自立になった利用者や個別誘導してパット交換をしたりその人に会った支援をしている。夜間は安眠を妨げないよう定時巡回をしてパット交換やトイレ誘導をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	毎日、入浴したいと訴える利用者もいるがm希望に添えていない。週に2回のペースで公平、平等に入浴して頂いている。	週2回を基本に午後利用者の様子を見て入浴しており、拒否する人には声掛けに工夫したりシャワー浴にして清潔保持の支援をしている。音楽を流したり入浴剤を使ったり暖簾をかけ、季節のゆず湯等で楽しんでいて自分好みのシャンプーを使っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	スタッフに個人差があるが、概ね理解できていると思う。症状の変化を確認、往診時に医師に伝えている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナウイルスの影響で現在は出来ていない。	近くの公園に散歩に出かけたり買い物に出かけていたが、今はコロナ禍で出来ていない。ペランダの花に水をかけたり景色を眺め外気に触れている。運動する機会を設けて、3か月に1度の理学療法士のメニューで体を動かしている。4月に敷地内でお祭りを開催して楽しんでもらう予定をしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ほとんどの利用者は日常的に所持は出来ていないが、事務所で預かりしている事をお伝えし、理解されている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	している。	リビングの2方が窓で明るく、テーブルや椅子・テレビ・本箱・や観葉植物が置かれ加湿器を置き1時間毎に換気をして空調に配慮している。廊下に行事の写真や利用者と一緒に作った桜の花を掲示し季節を感じる。ホワイトボードに行事予定を書いている。清掃は朝と夜に職員がして清潔に保たれ居心地よい空間がある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者様の関係に合わせた居場所作りを行うように努めている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人様の意向に沿うように努めている。	居室はベッド・カーテン・クローゼットが用意されていて利用者はテレビ・机・ハンガーラック等使い慣れた家具を持ち込み、仏壇を置いて時計を置き写真を飾っている。畳にして布団を利用している利用者もいて居心地よくその人らしい部屋作りをしている。清掃は週1~2回職員がしており利用者も一緒にすることもある。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	工夫して行っている。		